職場での風しん感染を予防するために

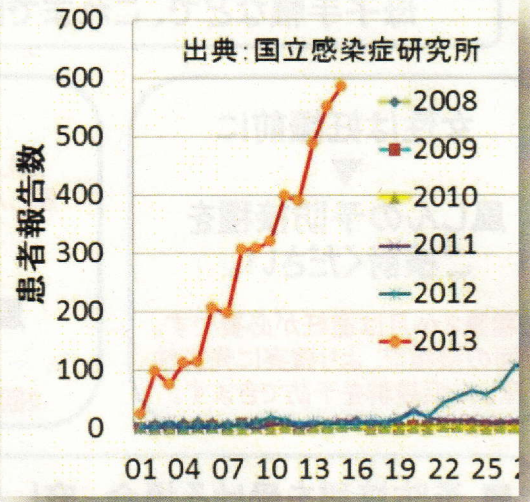
なぜ今、職場で風しん対策が必要なのですか？

◆2012年から首都圏や近畿地方などの都市部で流行が続いています。昨年の同時期と比較して今年の報告数は約30倍です。（2013年4月14日まで）

◆患者の7割以上が男性で、うち20～40歳代が約8割です。女性の約7割が20～40歳代です。

◆2011年の国の調査では、20～40歳代の男性の15%に風しんの免疫がなく、女性の11%では風疹の感染予防に不十分な免疫力でした。

◆2012年10月から2013年3月末までに8例の先天性風しん症候群（下記参照）が報告されています。



風しんとはどんな病気ですか？

◆風しんウイルスが感染者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつります。

◆主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。ただし、感染しても症状がでない人も約15～30%程度います。

◆通常は自然に治りますが、症状が出る前後の約1週間は、周りの人にうつす可能性があります。

先天性風しん症候群とは？

◆妊娠した女性（とくに妊娠初期）が風しんにかかると、耳が聞こえにくくなる、心臓に奇形が生じる、目が見えにくくなる、精神や身体の発達に遅れが生じるなどの障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんの予防方法は？

◆予防接種が有効な予防手段です。
1回の予防接種でも多くの人（約95%）に予防効果があります。
妊娠を希望する女性は2回接種することで、より確実に先天性風しん症候群を予防することができます。

厚生労働省・健康局・結核感染症課

職場での風しん感染を予防するための具体策

働くみなさまへ

母子手帳などで、これまでに風しんの予防接種を打ったか確認しましょう

女性は妊娠前に
▼
風しんの予防接種をご検討ください。

接種後2か月は避妊が必要です。2回の接種で、より確実に先天性風しん症候群を予防できます。

成人男性は

風しんにかかったことがない方
風しんワクチンを受けていない方
どちらも不明な方
▼
風しんの予防接種をご検討ください。

2回接種しても問題ありません。

妊娠中の女性の家族は
▼
風しんの予防接種をご検討ください。

妊婦は風しんの予防接種を受けられません

- ■ 予防接種を受ける場合、麻しん対策の観点も考慮して、麻しん風しん混合ワクチンを接種することをお勧めしています。
- ■ 予防接種の実施医療機関については、お住いの市区町村にお問いあわせ下さい。
- ■ 妊娠中で予防接種を受けられない場合（特に妊娠初期）には、人混みを避けるなど、風しんにかかっている可能性のある人との接触は可能な限り避けてください。

風しんにかかってしまったら、
◆勤務先と相談の上、感染を周りに広げないように自宅で休みましょう。
◆やむを得ず外出する際には、マスクを着用し、できるだけ人混みを避けましょう。

事業者の方へ

健康で安心な職場の環境整備のため、下記の対策をご検討ください。

従業員が予防接種のために医療機関などの受診を希望した場合には、ご配慮ください。

入社時などに、予防接種の記録の確認を本人に呼びかけるようにしてください。

職場での二次感染予防のため、風しんにかかった人の休暇についてご配慮ください。

従業員に対し、風しん抗体検査の機会を設けるようご配慮ください。

厚生労働省・健康局・結核感染症課